

【①表現—B:材料・素材】

■切って、ひねって、つないでみよう

●題材提示の工夫

「牛乳パックを、はさみで切ったりひねったり、つくったもの同士をくっつけたりしてみよう」こう言って子どもたちの前で牛乳パックを切ったり、ひねったりしてみせてから活動に入った。しばらくすると、牛乳パックをばらばらに切ってしまう子が。慌てて、「途中で切り落とさないように切り開いてみよう」と声をかけた。子どもたちの前では切り落とすところを見せていないので、そういうことはしないと思っていたが、そんなことはなく、明確な指示と、題材提示に工夫が必要だと思った。

●友だちとの関わりから

切り進めていくと、いろいろな形に見立てたり、自分のつくりたい形に合わせたり、友達と話しながら発想を広げている姿があった。



しばらくすると、切り開いた紙をできるだけ長くするにはどうしたらよいか、友達同士で相談を始めた。一人の子の「できるだけ細く切れば長くできるよ」という提案から、切り落とさないように、慎重にはさみを使い、長く切り開いていった。



さらに、活動が進んでいくと、自然と友達同士で「つなげてみたい」という声が上がったので、安全なホチキスの使い方を確認して

から、活動を進めることにした。



●活動を振り返って

紙パックという材料を積んだり並べたりするのではなく、はさみで切ったりひねったり切り開いたりして形を変えながら、つないでいく楽しさを十分に味わわせることを大切にしたいと考える。変わっていくおもしろさに気付くための手立てとして切ることやひねること、くっつけることがあるというような導入の仕方にすればよかったと思う。

「切って、ひねって、つないでいろんな形に変身」などと言って、形がどんどん変わっていくところを見せてから活動を始めてみたいと思った。

(神奈川県横浜市立西寺尾小学校教諭)